

県立病院事業評価委員会からの評価・提言事項

平成25年12月20日
県立病院事業評価委員会

総括的評価

収益を確保でき、採算面で問題がないのであれば、D案（全面改築）がよい。
（C案もよいという意見もあったが、A案、B案を推す意見はなかった。）

個別の提言等

宮崎病院は、災害拠点病院や臨床研修病院としての役割を担っており、今後の医療圏を牽引するのは、宮崎大学附属病院と宮崎病院が中心になるので、D案（全面改築）が適切ではないか。

新築して30年～35年経てば、病院機能は古くなるので、その後の建て替えを考えると、（既存改修で）一部の建物を残すより、D案のように全面改築のほうがよい。

C案は（新棟と既存病棟を結ぶ）通路が長いので、患者にとっては大変である。

C案かD案がよいと思う。C案の長い通路に関しては、西側の広い場所に通路に平行する形で新棟を建てれば、長い動線は緩和される。東側に動線はなくてもよいと思われる。

パースを見ると緑地が少ない印象を受ける。屋上庭園や緑の小道など患者さんの癒やしの空間を造るという発想をもってもらいたい。

何十年か経てば人口も減少していくので、建て替え後15年程度で採算がとれるように、経営的な視点からも判断する必要がある。